



雪若丸 情報

穂肥診断編

庄内総合支庁農業技術普及課 (TEL 0235-64-2103)

葉色は濃い！作溝・中干しを効かせて、適期・適量の穂肥を！

1. 生育状況（6月30日現在）

- 普及課作柄診断圃の生育：平年と比較して、草丈は長く、茎数は多く、葉色はやや薄い。
- 管内の圃場では、ワキ等の影響もあり茎数の圃場間差大きい。葉色が濃い傾向。

雪若丸の生育状況（鶴岡市長沼、5月12日移植）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
本年	45.7	788	9.7	42.6
平年	42.0	708	9.6	44.9
平年比差	109%	111%	+0.1	-2.3

2. 生育に合わせて中干しの程度を調整

- 茎数が多い・葉色が濃い圃場では、強めの中干しを行い、無効分けつの抑制・葉色の低下を図る。ただし、穂肥まで葉色を40未満に落としすぎないように、中干しの程度を調整する。
- 茎数がやや少なく葉色が濃い圃場では、弱めの中干しを行い、根の健全化を図る。

3. 穂肥診断のポイント ～生育診断と幼穂確認で適期・適量の穂肥～

- 6月30日頃（葉数約9.6枚）の生育量に基づき、穂肥の時期・量を調整する（下表参照）。
- 生育が適正範囲の場合は、出穂25日前に、窒素成分1.5kg/10aを施用する。

生育量別の穂肥の目安

生育量	茎数		葉色 (SPAD)	施用時期と窒素成分量
	坪70株	坪60株		
生育不足	26本/株未満	31本/株未満	40未満	出穂30日前、1.5kg/10a
適正	26～35本/株	31～41本/株	40～44	出穂25日前、1.5kg/10a
生育過剰	35本/株以上	41本/株以上	44以上	出穂25日前、1.0kg/10a

※地力の低い圃場では窒素成分2.0kg/10aを上限として、早目に追肥する。

※穂肥前に補完追肥を行った場合は、補完追肥した量を、穂肥の量から減肥する。

※基肥、補完追肥、穂肥の合計量は、窒素成分8kg/10a以内とする。

- 出穂期は7月31日頃、穂肥の適期（出穂25日前）は7月6日頃の見込み※。

※普及課調査圃場（鶴岡市長沼、5月12日移植）の幼穂の発育状況より予想。

⇒幼穂を確認して、出穂前日数を把握し、適期に追肥する。

幼穂長0.2mm ⇒ 出穂前30日

幼穂長1.0～1.5mm ⇒ 出穂前25日

4. 中干し後から出穂期の水管理～間断かん水で健全な根の発達を促進～

- 中干し終了後は、走り水を行って足跡に水が溜まる程度とし、徐々に間断かん水（2日湛水・2～3日落水）に切り替える。出穂するまでは間断かん水を続け、土壌を酸化的にし、根の発達を促す。
- 出穂期前後は、水深2～5cmを保つ湛水管理「花水」に切り替える。

斑点米カメムシ類の発生は多い予想！ 畦畔の草刈りを徹底しましょう！
熱中症予防と農作業事故防止のため、定期的に水分と休憩を取りましょう！